



## 脳卒中と認知症、その予防の秘訣

**猪原 匡史**

(国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 脳神経内科 部長)

この公開講座では、私は脳の内科の立場から、脳卒中(脳梗塞・脳出血)と認知症を取り上げて、その予防の秘策についてお話をしたいと思います。

脳の重さは体重のわずか2.5%なのに、血液の量は全身の20%を必要とする臓器です。大量の血液が必要な臓器ですから、生活習慣病などによって動脈の壁が硬くなつてしまつやかさが失われる「動脈硬化」、さらに、そうした動脈硬化に基づき脳卒中が起つてきて、最終的に認知症に結びつくということがわかつてきました。

認知症というと、脳の神経細胞がひとりでに死んでいく難病で、なすすべがないというイメージから、アルツハイマー病を思い浮かべる方が多いのではないかと思います。しかし、実は働き盛りの方の認知症の一番の原因は脳卒中(特に脳出血)です。したがつて、脳卒中を予防すれば、認知症も予防が出来るのです。

昨今、次第に明らかになってきた脳卒中と認知症予防のための、食事療法、運動療法、そして薬物療法についてお話を進めたいと思います。

**略歴**

1995年 3月	京都大学医学部卒業
1995年 5月	京都大学医学部附属病院(研修医)
1995年 10月	西神戸医療センター(内科研修医・神経内科修練医)
2003年 3月	京都大学博士(医学)
2003年 10月	京都大学大学院医学研究科先端領域融合医学研究機構助手(特任)
2006年 9月	英国ニューカッスル大学加齢医学研究所研究員
2008年 2月	京都大学医学研究科臨床神経学助教
2012年 4月	先端医療振興財団先端医療センター再生医療研究部副部長
2013年 4月	国立循環器病研究センター脳神経内科医長
2016年 9月	同部長



## 脳卒中の最新治療と医療連携

**坂井 信幸**

(神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 部長)

主要脳動脈が急に閉塞すると半分以上の患者さんが死亡または寝たきりになります。その多くは、血の塊(血栓)が体内で形成され脳動脈に流れ込む脳塞栓症という病気です。詰まつてから素早く血栓を溶かしたり回収したりすることができると、脳梗塞に至らず完全回復することが可能となる症例があります。その治療の代表が血栓を溶解する薬(tPA)の静注療法です。発症4.5時間以内に治療を開始することが条件となります。また近年、カテーテルを使って脳動脈内に詰まつた血栓を回収する血管内治療が発展してきました。いずれもその有効性が確認されていますが、脳は血流が途絶えると時間とともに脳機能を失つていきますので、出来るだけ早く再開通療法を開始する必要があります。急に顔がゆがむ、手が挙がらない、うまくしゃべれないなどの症状が出現したら、脳卒中かも知れませんのですぐに救急車を呼びましょうという呼びかけ(FASTキャンペーン)が広く市民に対して行われています。救急車が脳卒中センターと呼ばれる専門病院に患者さんを運んでくれさえすれば、そこには専門の医療スタッフが待機していて最善を尽します。この講演では、脳卒中の最新治療と医療連携について解説します。

**略歴**

1984年	関西医大卒業
1991年	脳神経外科専門医
1991年	米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校留学
1997年	京都大学医学部脳神経外科助手
2000年	国立循環器病センター脳神経外科医長
2001年	神戸市立中央市民病院脳神経外科医長
2005年	同部長